

## 2003（平成15）年度 後期 京都大学 入試問題 文理共通 第1問 解答例

### 問一

日本文化は新旧が並列的に共存する傾向にあり、古典芸能と呼ばれる日本の伝統演劇の演者は、伝承の形を現代的に改革しようとも、本当の意味で国家の保護を受けられる環境を求めようともしない。むしろ逆に、演者は両者の関係が歪で漠然とした現実に留まり満足しているということ。

### 問二

西欧における文化伝統は、古い存在が否定または吸収されて次の時代の新しい文化が形成されていく系列型である。したがって、西欧演劇にとって異質な、トータルな形で伝えられている日本の伝統演劇は、将来への視点をすえた軌道修正のための前進という飛躍のための機縁となるから。

### 問三

伝統は、様式への礼賛が先立ち、それを支える心の問題が忘れられやすく、その評価は手放しに甘くなる傾向にある。このため、伝統を真の古典演劇へと高める決意と、現代という時代と対決する覚悟が薄れ、外国の様式と馴れ合い、伝統の本質を無自覚なまま喪失する恐れが常にあるという意味。

### 問四

伝統は、様式の形骸の惰性的な保存ではなく、時代を超えた美の真実と時代の要求する流動の美の融合である芸術において、より多くあらゆる時代に訴える新鮮な美と力を持つための努力とその不断の累積である。真の伝統は、現代に対してみずみずしい感動をもたらさうという意味。

### 問五

日本の演劇は、新旧様々な演劇形態に加え、明治以降は西欧の演劇形態までが共存している。しかし、この様式の豊富さは、時代を超えた美の真実と現代の要求する流動の美の融合した、現代日本にふさわしい美と力を持つ新しい形が伝承されていないことと表裏一体であるという意味。